

ベッド型マッサージ器全般 資料

マッサージについて

先日HPでローラーベッドを検索したところ、TM NETWORK 木根尚人（きね なおと）さんのブログから、「地元の整骨院でローラーベッドに乗っています。とても気持ちいい～」とあり、写真も載っていました。「あっ！それうちのフロンティア！」と思わず叫んでしまいました。とても嬉しくなり、すぐ御礼の返信をさせていただきました！

そこで、マッサージについて少々述べさせていただきます。マッサージとは、体表より力学的刺激（触れたり、揉んだり、押ししたり、ふるわせたり、たたいたりする）を生体に及ぼし、一定の生体反応を生ぜしめ、生体の体調をととのえ、病気を予防し、健康増進するための施術のことをいいます。

マッサージにより、血液やリンパの循環がよくなると、身体内の組織に栄養物や酸素の供給が盛んとなり、抵抗力も強くなります。また「なでる、揉む、押す等」の触圧刺激は、皮膚にめぐる神経を介し、全身機能に影響し、変調を矯正するはたらきがあります。



オスピナマッサージ

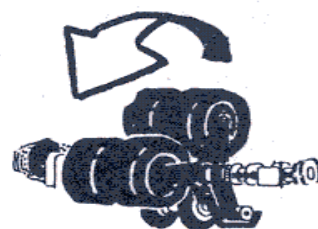
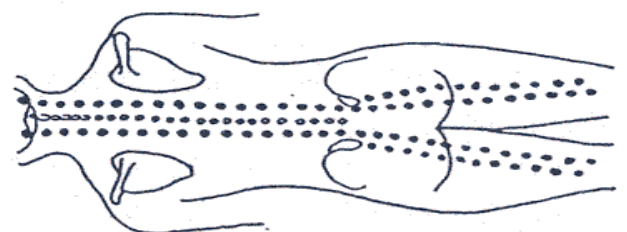
当社ローラーベッドの基本思想は一貫しています。それは東洋医学（按摩・マッサージ）とカイロプラクティック療法の融合です。

東洋医学に按摩（あんま）という考えがあります。按摩は手技により主に皮膚・筋・四肢の関節・神経へのはたらきを行ないます。

【マッサージとの違いは、心臓に近い方から遠い方に向けて行なう刺激（遠心性）を按摩、心臓に遠い方から近い方に向けて行なう刺激（求心性）をマッサージというようです。】

それに対しアメリカにおいて発展したカイロプラクティック療法は、手技によって脊柱の不全脱臼を矯正する、サブラクセーション（椎骨のズレ・歪みによって神経伝達に異常を発生させる状態）への治療を主とします。

当社ローラーベッドの「オスピナマッサージ」は、これらの手技療法を代行するもので、関節の可動域を広め、脊柱・腱・節・皮膚神経につながる形体機能の歪みを調整するために大いに役立ちます。



上半身用ローラ



下半身用ローラ

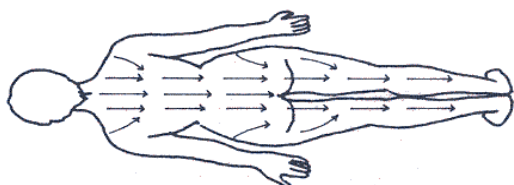
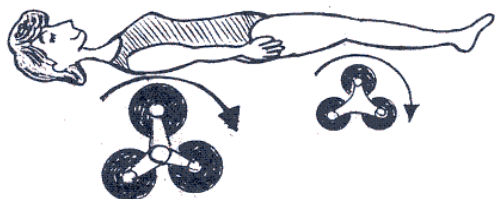
オスピナの遠心求心

オスピナ (OSPINA) は当社機器の造語で、オス (OS) は英語の「骨の単数形」を、スピン (SPIN) は英語の「回転」を表します。

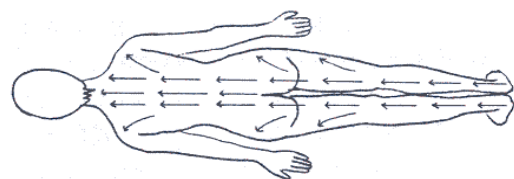
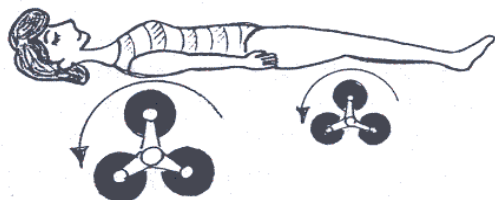
当社独自の三叉ローラーは、同心円を描く遊星回転運動、つまり脊椎に沿って直径15cmのローラーが120度の間隔で3箇所あり、同心円にて回転します。

ローラー自体は上からの当たりに対し滑らかに回転します。ローラー硬度は約40度と母指の強さに設定され、1分間に16～21回転身体に当たります。これは人間の安静時の呼吸数に合致するよう設定したものです。

身体への伝わり方は、漸増漸減 (ざんぞうざんげん) という考え方で、徐々に強く感じ、最大値になると、徐々に弱くなる快適刺激です。浅背筋・深背筋などの背筋をやわらかくもみほぐし、全身の心地よい筋弛緩に役立ちます。



遠心性オスピナマッサージ



求心性オスピナマッサージ

そしてローラーの回転方向により、「遠心性オスピナマッサージ」と「求心性オスピナマッサージ」があります。

「遠心性オスピナマッサージ」は、中枢から末梢、即ち頭から足方向に回転します。

「求心性オスピナマッサージ」は、末梢から中枢、即ち足から頭方向に回転します。

以上が当社ローラーベッドの心臓部であり、こだわり続けてきた部分です。

一度乗ってみてください！

次回は揉みについて説明します。

モミについて

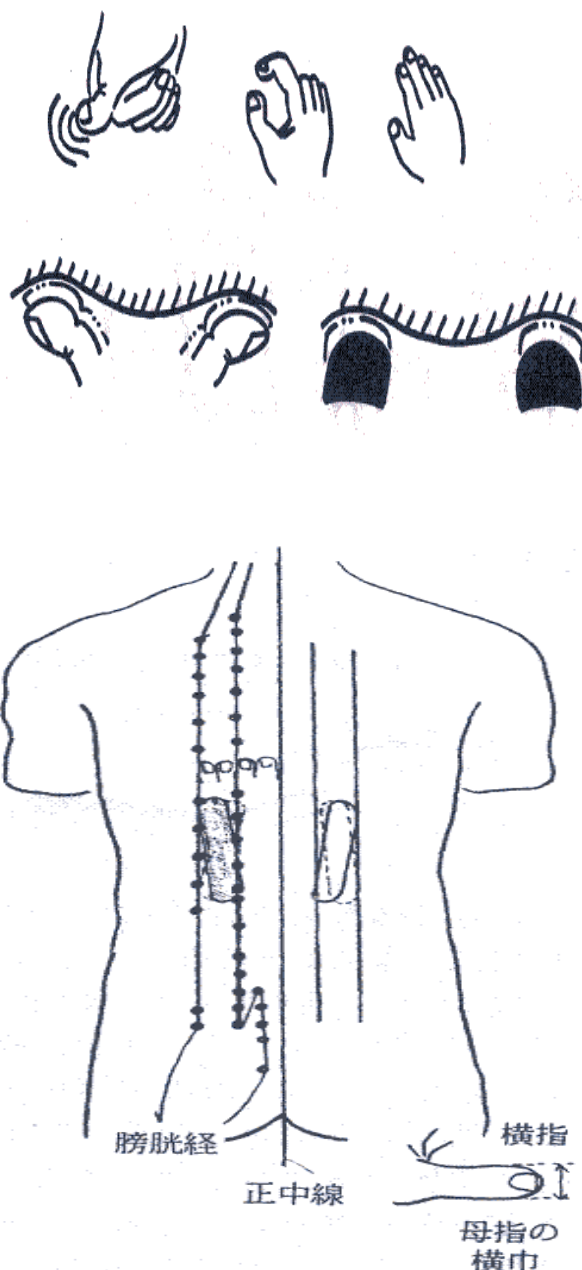
モミは揉捏法 (じゅうねつほう) と呼ばれ、マッサージのなかで最も大切な手技の一つです。マッサージの対象となる筋肉箇所をゆるめ、その部位の疲労素や老廃物を押し出す効果が期待できます。

当社モミローラーは、身体背部の多重層からなる筋肉をつかみ・適度の強さでしぼり・こねるようにしながら揉みほぐします。モミローラーの回転は、単なる八の字運動ではなく、遍芯運動を加えた三次元刺激の構造で、脊柱両側を蛇行するよう移動したり、頸椎部や臀部では移動せずその場で動作します。

神経機能の中心は中枢神経であり、脳と脊髄からなっています。脊髄には脊柱管が入っており、太さは小指くらい、長さは約40～45cmです。上端は大後頭孔で延髄に連なり、下端は第1・2腰椎で終わります。脊髄神経は脊髄から出る末梢神経で、それぞれの椎間孔から外に出ています。多くの神経は脊柱両側で上下たがいに吻合し複雑に交通して神経網をつくり、そこから枝分かれして全身に分布します。

鍼・灸を施術する部位を経穴（つぼ）といい、経穴を機能的に結ぶ連結通路系を経絡といいます。背中部は下図のように正中線の両側2横指、さらに2指外側隔て、正中線と平行に上から下方に向けて走る2対4線の経絡（太陽膀胱経）があります。

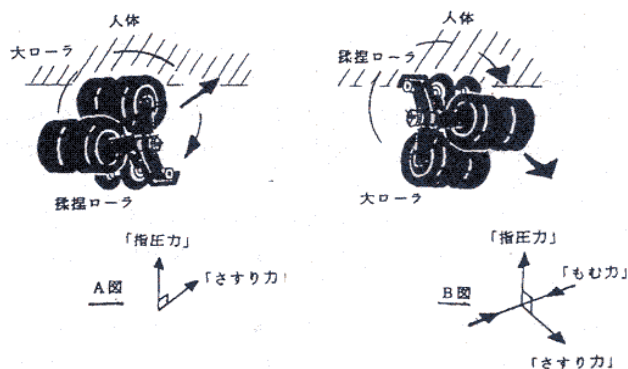
当社モミローラー付きローラーベッドは、その箇所周辺を揉捏しながら移動します。モミといっても頸部から臀部までの治療ポイントが大事となり、モミローラーの構造がどうであるか、そして安全かつきっちり当たるかがカギとなります。



スピンローラーについて

オスナマッサージとその遠心・求心性、そしてモミについてお話ししてきましたが、これら当社ローラーベッドのノウハウを活かし、その二つを合体させた「オスピナ・スピンローラー」を新たに開発しました。

スピンローラの三次元刺激



左図のように、2個の大ローラーと1個のモミローラーが同心円に取り付けられ、これが一組となって風車のように回転しながら人体をマッサージします。

A図のように大ローラーが人体に接触するときのベクトルは、大ローラーが人体を押し上げる「指圧力」、90度矢印方向に加える「さすり力」といった、二つの合成したベクトルで人体をマッサージします。

B図のように、モミローラーが人体に接触するときのベクトルは、モミローラーが人体を押し上げる「指圧力」、90度矢印方向に加える「さすり力」、新たに「もむ力」が加わった、三つの合成ベクトルで人体をマッサージ

します。

これら刺激が加わった「スピンローラー」は当社オリジナルの決定版であり、オスピナマッサージをグレードアップしたものです。「スピンローラー」はモミだけで使うことや、遠心・求心性はもちろん、頸部から臀部までの移動や、固定でのマッサージも可能です。

当社機器「インペリアル シンフォニー」・「オスピナレーター フロンティア」には「スピンローラー」が、「オスピナレーター R-303 WAVE-II」には「オスピナローラー」が搭載されています。

振 せん 法 に つ い て

手の指や全部を使って患部を軽く押しながらふるわし、身体組織に与える手技を「振せん法」といいます。ここでは軽く押しながらふるわすことがポイントです。逆に強く押しながらふるわすと「圧迫法」になってしまい、「振せん法」の効果はなくなってしまいます。

「振せん法」には、牽引を加えながら振動を与える「牽引性振せん法」、

指の先端をふるわせながら患部を刺激する

「指端振せん法」、

片手または両手の手のひらを使う「手掌振せん法」があります。

「振せん法」は、筋肉の興奮を増進させ、神経の調整作用としては鎮静にはたります。また血管運動神経に作用することにより血圧を下げ、脈拍を減少させる等の期待があり、あんま・マッサージとして大変重要、かつ有効な手技となっています。

ただし、この手技は術者の疲れが早くくるため、長く続きません。

そこで、機器の説明となりますが、次回は「インジェクション」についてお話しさせていただきます。



インジェクションについて

ローラーを作成するにはインジェクションという工法を用います。インジェクションとは射出成形のことをいい、金型で出来た箱の中に液状化した生ゴムを注入し、さまざまな形状のものを成形します。

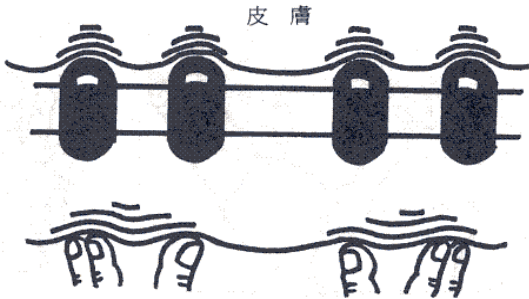
足ローラー用金型の写真を撮りました。ちなみに到底人が持てる重さではありません。完成品は小さいものでも、金型作成は結構大掛かりで、かつ高価なものとなります。

ただし数量が多い場合の大量生産に対応出来、均一な品質で、単価を安く抑えられるメリットがあります。

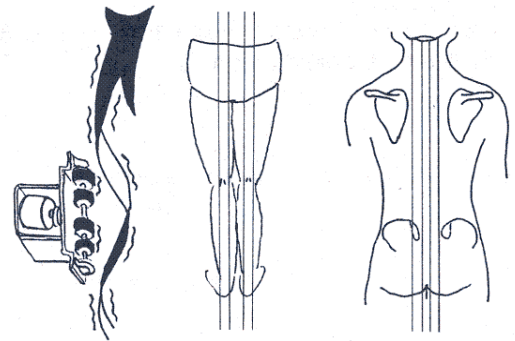


振 せん に つ い て

当社振せんローラーは、ご紹介したインジェクションローラーを用い、手のひらや指先を局部にあて、軽く押しながら振るわせる、「リズムカルな」当たりを代行します（手技による振動刺激に近づけることを目指しました）。手で行なう振せん法は非常にデリケートで熟練を必要とする手技ですが、術者が疲れ、長続きしない欠点があります。しかしこの方法（機械的振動）であれば、いくら長時間行なっても疲れることはありません。



振せんローラーは、（連続または間欠）振動しながら、腰部～下肢部を往復移動します。手技に近い「デリケートできめ細かい」刺激を生体に与えます。



フロンティア振せん法

シーソー療法について

振せんの応用編として開発されたのが、シーソー療法という当社オリジナルの構造です。

従来のバイブレーションが接触部分の刺激効果であったのに対して、人体振動理論を応用することにより、刺激体の接触部はもちろん、非接触部におけるマッサージについて、明確な指針を打ち出しました。

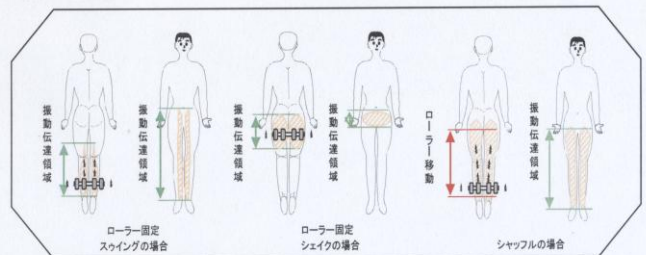
振動速度を変化させることにより、金魚法と言われるゆっくりとした動きから、毛管運動と言われる細かな動きまで、さまざまな刺激に変化をあたえ、振動伝達領域を変えることができます。詳しくは右記の説明を！

この機構を搭載した機器は「インペリアルシンフォニー」だけです。

“人体振動理論”

仰臥姿勢における人体の各部位には固有の振動数があり、部位ごとに振動を知覚する振動知覚特性（図1）や、振動知覚閾値（図2）が存在します。アスカは“人体振動理論”に注目し、最高のマッサージ効果やリラクゼーション効果が期待できる振動数を割り出すことに成功しました。

ミキシング療法の詳細図



1) 脚マッサージシステムの詳細 (ミキシング療法)

	振動数	振動知覚閾値	刺激感	特徴
スウィング	最も低い	最も高い	小さい	刺激の到達距離は長く、深い
シェイク	中間	最も低い	大きい	部位を選ばない
シャッフル	最も高い	低い	大きい	表層部の振動伝達に優れる

2) 頸肩部波動揉捏

頸椎前湾に沿ってのマッサージで遠心性・停止・求心性を交互に繰り返す。

3) 腰臀部波動揉捏

腰椎前湾に沿ってのマッサージで遠心性・停止・求心性を交互に繰り返す。

※ 硬直した筋に対して穏やかで、リズムカルな圧迫・弛緩を繰り返します。

筋の緊張緩和に効果があります。（マニプレーション効果）

※ 毛管運動ともいひ、振動を加えることで毛細管の血行を促進するのに効果があります。（サーキュランド効果）

以上で、ベッド型マッサージ器全般の説明を終わります。